17　舞楽蒔絵棚　1基　八代西村彦兵衛（象彦）

木製漆塗、蒔絵　昭和3年（1928）
46.2×120.8×122.0

昭和3年の大礼に際し、奉祝の品として三井家より献上された棚。『源氏物語』より主題をとり、棚板には楽人の乗った龍頭鷁首の船を、引戸には「紅葉賀」や「胡蝶」の段から青海波の舞、胡蝶の童舞の情景が表されている。様々な蒔絵技法が駆使されているとともに、各所に彫金による部材が嵌込まれており、金属の輝きが一層に強調されている。また、貴石の象嵌、螺鈿の部分もあり、色彩も華やかに仕上げられた作品である。框座底裏には「平安象彦謹製」の蒔絵銘があり、京都の漆器商、西村彦兵衛商店（屋号：象彦）の製作による。当時の当主であった八代彦兵衛（1887～1965）は若年で象彦を継ぎ、蒔絵技法の研究を重ねた。漆工競技会などの展覧会にも多くの作品を出品、大正5年には美術蒔絵学校を設置するなど、後進の育成につとめたことでも知られる。

16　萬歳楽置物　1点　初代徳田八十吉

陶磁　昭和3年（1928）
23.2×21.5×26.5

昭和3年大礼の折に小松町（現・石川県小松市）より献上された九谷焼の置物。記録によれば作品の意匠は金沢の画家玉井敬泉、原型は宮川準一が担当、本作の鮮やかな絵付けを中心となって行ったのは、初代徳田八十吉（1873～1956）である。初代八十吉は顔料や釉薬の改良に努め、編み出した独自の釉薬は高い評価を受けた。また多くの後進を育てるなど、陶芸家として近代九谷焼の発展に貢献した。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

雅楽―伝統とその意匠美
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 37

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十七年四月十六日発行

© 2005, The Museum of the Imperial Collections